

2025 年 10 月 8 日
J F E 鋼板株式会社

全社基幹システム刷新 (IBM・富士通ホスト⇒オープン系システムへの移行)

プロジェクトの完了について

当社は本年 7 月、生産・販売管理を支える全社基幹システムの刷新を完了し、オープン系システムに切り替えました。

本プロジェクトは 2018 年に開始しました。まずは生産管理系システム(富士通ホスト)を、2020 年に倉敷、2024 年に千葉の順で刷新し、2025 年 7 月に本社の営業基幹系システム(IBM ホスト)を刷新してクラウドへ移行し、全社基幹システム全体の刷新が完了したものです。

経済産業省が 2018 年に発表した「DX レポート～IT システム『2025 年の崖』の克服と DX の本格的な展開～」(※1)で警鐘を鳴らした「2025 年内での完了」を達成しました。

当社の基幹システムは、ホストコンピューターと呼ばれる古いメインフレーム(大型汎用機)で過去より稼働してきました。このメインフレームについては、供給ベンダーの撤退及び事業縮小による寡占化と技術(ハードウェア、ソフトウェア)のニッチ化による各種リスクがユーザー側の課題となっていました。このような環境変化と課題に対して、当社では、「従来通りメインフレーム上でシステム稼働を続ける事は、事業運営上の大きなリスクとなる」と経営判断し、2018 年より「全社基幹システム刷新プロジェクト」を開始しました。

当社は、プロジェクトの基本方針を「オープン系システムへの移行」に据えて、メインフレーム上で稼働してきた各種システムのプログラム言語を書き換え、オープン系システムへ載せ換えました。当社の既存システムの規模は、プログラムの記述言語の行数に相当する「ステップ数」で換算すると約 1 千万ステップです。

このプロジェクト推進では、既に 1 億ステップ以上の大規模システムを刷新した成功実績がある JFE スチールのノウハウ(実際に経験・蓄積した技術)をグループ内外で共有する「モダンイゼーション支援」(※2)を受け、システム開発側からではなく実務サイドの目線からプロジェクトを推進していきました。

至近で立上げた営業基幹系システムの刷新では、プロジェクトのメンバーの軸に「実務を掌握している営業、工程、技術の実務部門の経験者」を配置し、判断と実行速度を速め、

プロジェクト全般に亘って『ベンダーに丸投げしない姿勢』で、自ら「業務フローの作成」や「変換作業の可視化、標準化」などの工夫をし「生産性と品質の向上」を実現しました。

今回の全社基幹システム刷新の完了で、当社は『2025 年の崖』のリスクを克服し、「お客様へ安定した品質の商品を、求められるタイミングでお届けしていく販売・製造体制強化」と「今後の DX 化推進に向けた基盤整備」が大きく前進いたしました。

今後は、お客様ニーズや環境変化に、これまで以上にスピーディーかつ柔軟に対応して、お客様から選ばれる会社を目指してまいります。

(※1) 「2025 年の崖」… 経済産業省が 2018 年に発表した DX レポートにおいて、既存の IT システムの複雑化・老朽化・ブラックボックス化、システム運用・更新に携わる IT 人材不足やサポート終了等により、2025 年以降最大 12 兆円/年の経済損失が生じる可能性がある」と指摘されている。

(※2) 「モダナイゼーション支援」…既存システムを「最新の技術に適合した現代的なシステム」へ刷新する JFE スチール提供のソリューションビジネス。

<https://www.jfe-steel.co.jp/products/solution/data-science/33-core-system.html>

以 上

問い合わせ先 JFE 鋼板 総務部
03-3493-1417